

食物アレルギーの最近の流れ/アトピー性皮膚炎 軟膏治療の流れ vol.7年報/2012.09.30発行

食物アレルギーの最近の流れ



年報vol.4 (2008-2009) に卵アレルギーのある主に小学生を対象に食べて治す治療が始まったという掲載をしました。その後の報告です。

現在全国で加熱卵、牛乳、小麦を中心に行われるようになりました。

方 法 5歳以上で以前アナフィラキシーを起こしたことがある食品を、症状が出ないとわかっている量よりさらに少量から食べ始め、徐々に増量し約2週間で一気に一定量まで食べさせます。
(初回食べ始めの量は人により異なります。)

ここ2年でわかってきた事

成果が多数報告された反面、一定数うまくいかない人があることも判ってきました。

うまくいかない人の特徴

- ①牛乳の場合、カゼインの検査データが高い人
- ②初回食べはじめの量が少ない人 (重症な人)
- ③気管支喘息を合併している人 などです。

原因などは今後さらに解明されてくると思います。

この方法をご希望の方はアレルギー外来でご相談ください。
大阪でも行っている病院がありますので紹介させていただきます。



アトピー性皮膚炎 軟膏治療の流れ



現在、アトピー性皮膚炎の治療で有効性と安全性が科学的に証明されている薬はステロイド軟膏とタクロリムス軟膏の2つだけです。
(当クリニックでは主にステロイド軟膏を使います。)

従来は、この薬を症状のひどいときに適宜塗り、良くなると中止し、保湿剤のみにするやり方が主流でした。(現在も軽症の方はこの方法が多いです。)

ただ、ステロイド軟膏を塗るのを止めてしばらくすると湿疹が悪化し、軟膏を再開することが度々あります。アトピー性皮膚炎は、皮膚の慢性炎症ですから軟膏を中止すると症状がでるのは極当然のことかもしれません。

そこで最近、ステロイド軟膏の量、回数を減らしながら保湿剤と一緒に塗り続ける方法で効果をあげている報告が増えてきました。

- 特 徴**
- ①一度改善した皮膚症状を悪化させずにツルツルに保てること。
 - ②5年、10年という長期でみると、ステロイド軟膏の総量を減らせること。
 - ③急性悪化を防げること。

この場合、良い状態が長く続くので、患者の痒み痛みに対する苦しみや家族の不安感も減少しているように思います。(主に中等症以上で行います。)
気になる方はアレルギー外来でご相談ください。



アレルギー外来

